Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-08-24

ご挨拶

中村，千春
釜谷，武志

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,10:1-2

(Issue Date)
2012-01-29

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003753

ご 挨 拶

神戸大学理事　副学長
中村　　千春
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター長
釜谷　　武志

第 10 回 歴史文化をめぐる地域連携協議会へのご参加、ありがとうございます。

神戸大学大学院人文学研究科（文学部）では、大学の地域貢献事業の一環として、平成 14 年（2002）11 月、地域連携センターを設置し、それ以来、歴史文化の保全・活用を目的とする自治体や NGO との連携事業を進めてまいりました。各事業をご支援いただいている皆様にあつく御礼申し上げます。

センターでは各年度末に、1 年間の活動を集約する意味をこめて、県内の自治体職員・市民団体・大学関係の方々に一堂に会していただき、歴史遺産の保存・活用について議論する協議会（コンファレンス）を開催しております。これまで 9 回の協議会を開き、今年度で 10 回目の開催となります。

さて、昨年 3 月に発生した東日本大震災があらためて示したように、大規模な災害は、多くの人が、これまでの自分の人生を振り返ったり、みずからの住む地域について考え、また、自身の体験や地域の歴史文化を後世に伝えようとする意識も高めるきっかけとなります。

しかしこうした地域を再認識し、また地域の歴史文化を次世代に残していこうとする活動は、単に大災害の時にのみ行われるわけではありません。近年、兵庫県内でも、市民のみなさんが自らの手で住んでいる地域の歴史を描き、また記録・継承し、あるいはそれをまちづくりに活かそうとする動きが各地で見られます。体験や地域の歴史について、書いたり、伝えようとすることは、それらがどういうものであるのかをあらためて認識し、考えることでもあります。

大規模な災害では、こうした動きが、より多くの人に、同時的に、あらわれるという特徴があります。したがって、災害資料をめぐる問題について考えることは、実は地域の歴史資料、あるいは地域歴史文化の形成について考えるにあたって、重要な手がかりとなります。

1995 年の阪神・淡路大震災の後でも、多くの人が手記を残し、また、地域の歴史や、自身のライフヒストリーを描く活動をおこない、こうした書くという行為を通して、自らの来し方や、地域について見つめ直すことになったといえるでしょう。

そこで、今年度の協議会のテーマは「地域歴史文化の形成と災害資料」としました。災害資料をめぐる人びとの活動や、それを支える環境の構築などの諸課題を考えることを通じて、地域歴史文化の形成・継承のために、大学・自治体・市民が連携し、何をすべきなのか、何ができるのかを考えていきたいと思います。活発なご議論を宜しくお願い申し上げます。

なお毎年開いておりますこの地域連携協議会は、地域歴史文化に関わるみなさまの相互交流の場であると考えております。協議会の間には、時間をとり、各団体の方々が交流できるコーナーやポスターセッションの場を設けました。多くの方々に交流して頂ければ幸いです。

最後になりましたが、本協議会のご後援を賜りました兵庫県教育委員会、兵庫県図書館協会、人と防災未来センター、伊丹市教育委員会に対してあつく御礼申し上げます。